

2015年 6月29日

2015年度・公式規則変更内容・決定報

(全12頁)

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



アメリカンフットボール公式規則を以下のように変更します。

- [1] 2015年度・公式規則変更主要項目の解説は、今年の公式規則変更を解説したものです。
 - [2] 2015年度・主な編集上の変更は、今年の主な編集上の変更内容を解説したものです。
 - [3] 2015年度・公式規則変更は、主要変更項目に関わる条文および編集上の変更内容を掲載したものです。
- この公式規則変更は2015年秋季公式戦より適用します。

[1] 2015年度・公式規則変更主要項目の解説

2015年度の公式規則変更主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる公式規則の、2015～2016の公式規則・公式規則解説書における「篇一章一条」を表します。

(1) 不正な装具となる条件の追加

- ☆ 従来、フェイスマスクに関する不正な装具の規定はなかった。
- ★ 本年より、標準的でない過剰な形状のフェイスマスクも、不正な装具となる。 (1-4-7-1 追加)

(2) 不正な装具の違反の変更

- ☆ 従来、不正な装具の違反が発見された場合、違反したプレーヤーが所属するチームにチーム タイムアウトが課せられた。チーム タイムアウトが残っていない場合は、ゲームの遅延の反則となった。また、装具がプレー中に不正な状態になった場合には、チーム タイムアウトは課されないが、装具が正当な状態に修理されるまでその選手は試合に参加できなかった。
- ★ 本年より、不正な装具の違反が発見された場合、あるいはプレーヤーが必要な装具を着用していない場合、チーム タイムアウトは課されず、そのプレーヤーは少なくとも1ダウン試合から離れなくてはならなくなった。所属するチームがチーム タイムアウトをとれば、そのプレーヤーは試合にとどまることができるが、いかなる場合でも不正な装具のままでは試合に参加できない。また、装具がプレー中に不正な状態になった場合、そのプレーヤーは次のダウンを離れなくてもよいが、装具が正当な状態に修理されるまで試合には参加できない。 (1-4-8-b および c 変更)

(3) 試合前のウォームアップに関する規定の追加

- ☆ 従来、試合開始前のウォームアップの時間に関する規定はなかった。
- ★ 本年より、レギュラー シーズンの試合の場合、両チームは少なくとも試合開始のキックオフの22分前までは試合のウォームアップのためにフィールドに立ち入ることができるという規定が追加された。なお、これはチーム間の書面による合意によって予め変更することができる。この規則に関する責任は、試合の

運営責任者にある。

(3-1-1-a 追加)

(4) ボールがレディ フォー プレーの状態でない時のプレー クロックのリセットに関する変更

☆ 従来、40秒計時が計時され、残り20秒以内となった時に、ボールがスナップできる状態でなければ、プレー クロックはレフリーのシグナルで25秒にリセットされた。

★ 本年より、上記の条件が、残り20秒以内から残り25秒以内に変更となった。

(3-2-4-b-3 変更)

(5) 守備側のプレーヤーのヘルメットが脱げた場合のプレー クロックに関する変更

☆ 従来、守備側のプレーヤーのヘルメットが脱げた場合、プレー クロックは40秒にセットされるが、前後半残り1分未満で守備側のプレーヤーのヘルメットが脱げ、それが10秒減算の対象であった場合、プレー クロックは25秒にセットされた。

★ 本年より、守備側のプレーヤーのヘルメットが脱げた場合、プレー クロックは、10秒減算の対象の場合でも、40秒にセットされる。

(3-2-4-c-12 変更 および 3-3-9-b-2 変更)

(6) スポーツマンらしからぬ行為の追加

☆ 従来、ボール デッド後、パイルとなっているところで、相手のプレーヤーを激しく押したり、激しく引いたりする行為は、スポーツマンらしからぬ行為として特に禁止されていなかった。

★ 本年より、上記の行為が、スポーツマンらしからぬ行為として特に禁止される例に追加される。

(9-2-1-a-1-(k) 追加)

(7) 試合の運営とサイドラインの妨害に対する罰則の変更

☆ 従来、試合の運営に対する妨害の罰則は、1回目と2回目の違反に対し、サイドラインの妨害によるゲームの遅延の反則となり、5ヤードの罰則。3回目およびそれ以降の違反に対しては、サイドラインの妨害による、スポーツマンらしからぬ行為の反則となり、15ヤードの罰則、B チームの反則に対しては、他の反則に抵触しない限り自動的に第1ダウンとなっていた。

★ 本年より、1回目の違反に対しては警告のみとなり、審判員はサイドラインへの警告のシグナル[S15]を行う。2回目以降の違反に対しては、従来の1回目以降の違反と同様の手順が適用される。4回目およびそれ以降の違反に対してはチームのスポーツマンらしからぬ行為の反則となる(2回の違反で資格没収となる反則に含めない)。

(9-2-5-(a)罰則 変更)

なお、審判員への身体的な妨害は、警告なくただちにスポーツマンらしからぬ行為の反則となる。

(9-2-5-(b) 変更)

(8) 審判員の人数に関する規定の変更

☆ 従来、試合は、4～7名の審判員の管理の下で行われると規定されていた。

★ 本年より、この人数が、4～7名から5～8名に変更となる。

(11-2-1 変更)

[2]2015年度・主な編集上の変更内容

2015年度・主な編集上の変更項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる公式規則の、2015～2016の公式規則・公式規則解説書における「篇一章一条」を表します。

(1) ボール加温器の使用禁止

☆ 従来、ボールの乾燥器は使用禁止となっていたが加温器の使用に関する規定はなかった。

★ 本年より、ボールの乾燥器に加え、加温器の使用も禁止となる。 (1-3-1 変更)

(2) パイロン カメラの使用

☆ 従来、フィールドおよびチーム エリア内あるいはその上空でのカメラの使用は、ゴールに取り付けられたカメラ機材およびフィールド等の上空に張られたケーブルに取り付けられたカメラを除き、禁止されていた。

★ 本年より、それらに加えて、パイロンに埋め込まれたカメラも例外として使用可能となった。

(1-4-11-c 変更)

(3) フィールド ゴールがニュートラル ゾーンの手前でデッドになった場合

☆ 従来、フィールド ゴールが失敗したプレーにおいて、ボールがニュートラル ゾーンを越え、ニュートラル ゾーンを越えた地点でBチームによってタッチされず、かつニュートラル ゾーンの手前でボール デッドが宣告された場合、その次のプレーに関する規定はなかった。

★ 本年より、上記の場合、その次のプレーに関しては、スクリメージ キックに関する全ての公式規則が適用されることが明文化された。

(8-4-2-b-3 追加)

[3]2015年度・公式規則変更

2015年度・公式規則変更内容の主要変更項目に関わる条文および編集上の変更内容は次のとおりです。この公式規則変更は2015年秋季公式戦より適用します。記載は、次の規則に従っています。

- ① 「篇一章一条」の後の(新規)、(追加)、(変更)、(削除)、(移動)は()内の事項が行われた事を示し、それに続く規則文は新変更文である。なお、新規、追加、変更の各用語は次の原則で使用する。
新規: 篇一章一条、あるいはその下位の項目の単位で、新規に条文が定められた場合。
追加: 文の単位で新たに条文が定められた場合。
変更: 一つの文の中で、条文の変更(単語等の追加を含む)が定められた場合。
なお、新規、追加、変更、削除等が混在する場合は、変更として扱う。
- ② 下線部は、変更、追加が行われた場合にその部分を示す。削除に関しては削除された部分を《 》で囲み、削除文字上に二重線を引いてある。
- ③ 新規の条文の発生、および削除に連動した既存の「篇一章一条」およびその下位の項目の番号の変更に関しては、原則として、この決定報に記載していない。
- ④ 他の規則との関係、見易さの向上等のため、競技規則の変更がない場合も、多くの記載場所、編集上の変更を行っている。異なる篇へ記載が変わった場合について、(移動)と記し、【注: ……】という形式で内容を記載している。

1-3-1-i (変更) ボールを規格外に変形させてはならない。これには、ボールを乾燥または加温させるものの使用も含まれる。ボール乾燥機器およびボール加温機器はサイドライン付近、およびチーム エリアで使用してはならない。

1-4-5 (変更) 【1-4-4-cと統合】
ジャージのデザイン、色および番号
a. デザイン:
1. ショルダー パッドを完全に覆う袖があること。裂けやすいように改造やデザインがされていないこと。ジャージは十分な長さが必要であり、かつパンツの中にしまわれているか、腰の位置まで届いていなければならない。腰および腰より上部にある全てのパッド類はジャージで覆われていなければならない。試合中にベストや2枚目のジャージを併用して着用することは禁止する。
【以下、省略】

1-4-7-k (新規) 公式規則:1-4-5を満たしていないジャージ。

1-4-7-l (新規) 標準的でない、過剰な形状のフェイスマスク。(A. R. 1-4-7-IV)

1-4-8-b (変更) 審判員が不正な装具の着用を発見した場合、《違反したプレーヤーが所属するチームにチームタイムアウトを課す。装具がプレー中に不正な状態になった場合、正当な状態に修理されるまで選手は試合に参加できない。この場合、チームタイムアウトは課されない。》あるいはプレーヤーが必要な装具を着用していない場合、プレーヤーは最低1ダウンは試合から離れな

ればならず、装具が正当な状態になるまで試合に戻ることはできない。チームがチーム タイムアウトを取った場合には、1ダウン試合から離れなくても良いが、不正な装具の状態あるいは必要な装具を着用していない場合はプレーをすることができない。

- 1-4-8-c (変更) 《タイムアウトが残っている場合、前後半における初めの3回は、違反チームにタイムアウトを課す。タイムアウトが残っていない状態で違反を犯した場合、ゲームの遅延の反則で5ヤードの罰則となる。》装具がプレーを通じて不正な状態になった場合、そのプレーヤーは、1ダウン試合から離れることを要求されないが、装具が正当な状態にならない限り、試合には参加できない。(A. R. 1-4-7-II)
- 1-4-10 (追加) プレーヤーが、他との連絡を目的として、電氣的、機械的、その他のいかなる通信装置も装備することを禁止する。(例外: 1. 耳の遠いプレーヤーのための、音をよく聞くために医学的に処方された補聴器。2. 安全および医学的な目的に限定された特定のデータ収集装置。)
- 1-4-11-c (追加) カメラ、音声装置、コンピュータ、マイクロフォンなどのメディアの伝達手段としての装置を、フィールド上あるいはその上空で、チーム エリア内あるいはそれらの上空で使用することを禁止する。(参照: 2-31-1)
- 例外:
1. ゴールのアップライトとクロスバーの後方の支柱に取り付けられたカメラ機材。
 2. パイロンに埋め込まれたカメラ。
 3. チーム エリアおよびエンド ゾーンを含むフィールド オブ プレーの上空に張られたケーブルに取り付けられた音声装置のないカメラ。
 4. チーム エリアに入ることができる60名までのチーム関係者の一員として許可された1名のビデオ撮影者。
- 2-10-1 (削除) 反則
反則とは、罰則が規定されている規則違反のことである。《ひどいパーソナル ファウルとは、~~重大な負傷の危険を相手にもたらし過度なあるいは故意の規則違反である。~~》
- 2-10-2 (新規) パーソナル ファウル
パーソナル ファウルとは、身体の不正な接触を伴い他のプレーヤーに負傷をもたらす危険がある反則のことである。
- 2-10-3 (新規) ひどいパーソナル ファウル
ひどいパーソナル ファウルとは、身体の不正な接触を伴い相手に重大な負傷をもたらす危険がある、過度あるいは悪質な反則のことである。
- 3-1-1-a (新規) 試合前のウォームアップ。レギュラー シーズンの試合の場合、両チームは、キックオフの22分前までは試合のウォームアップのためにフィールドに立ち入ることができる。これはチーム間の書面による事前の合意によって、変更することができる。この規則に関する責任は、試合の運営責任者にある。

- 3-2-4-b-3(変更) 40秒計時が計時され残り≪20秒以内≫25秒以内になった時に、ボールがスナップできる状態でなければ、レフリーはタイムアウトを宣告し、プレー クロックを25秒にセットするシグナルをする。プレーが開始できる状況になれば、レフリーはレディ フォー プレーのシグナル[S1]をし、プレー クロックが25秒の計時を開始する。ゲーム クロックは、レフリーがタイムアウトを宣告した時に計時中でなければ、スナップで計時開始とする。計時中の場合は、レフリーのシグナルで計時を開始する。
- 3-2-4-c-12(削除) プレーを通じてオフェンス チームのプレーヤーのヘルメットが完全に脱げた場合、ディフェンス チームのプレーヤーのヘルメットが完全に脱げた場合は、プレー クロックを40秒にセットする。~~《(例外:前後半いずれにおいても10秒減算の選択がある場合には、いずれのチームのプレーヤーに対してもプレー クロックは25秒にセットする。)>>~~
- 3-3-9-b (変更) ヘルメットが脱げたことのみによって計時停止となった場合、あるいはヘルメットが脱げたこととそのプレーヤーまたは同一チームのプレーヤーの負傷のみによって計時停止となった場合(参照:3-3-5)、以下の項目が適用される。(A. R. 3-3-9- I ~ III)
1. ≪前後半残り時間が1分以上の場合、≫プレーヤーがオフェンス チームであれば25秒、ディフェンス チームであれば40秒にプレー クロックはセットされる。前後半残り時間が1分以上の場合、レフリーのシグナルでゲーム クロックは計時開始となる。
 2. 前後半残り時間が1分未満の場合、相手チームは10秒減算を選択することができる。《その場合、プレー クロックは25秒にセットされる。》10秒減算が選択された場合、レフリーのシグナルで計時開始となる。10秒減算が選択されなかった場合、スナップで計時開始となる。チーム タイムアウトが残っていれば、タイムアウトを使うことで10秒減算を避けることができる。両チームのプレーヤーのヘルメットが脱げた場合には、10秒減算は選択できない。
- 5-2-9 (変更) ボールが次に正当にスナップされた後、正当にフリー キックされた後、および第2節、第4節が終了した後は、公式規則の決定を変更できない(参照:3-2-1-a, 3-3-4-e-2および11-1)。(例外:ダウン数の誤りは、そのシリーズの間、あるいはそのシリーズが終了後、ボールが次に正当にスナップされる前に、修正することができる。)
- 8-4-2-b-3(追加) ボールがニュートラル ゾーンを越え、ニュートラル ゾーンを越えた地点でBチームによってタッチされず、かつニュートラル ゾーンの手前でボール デッドが宣告された場合は、スクリメージキックに関するすべての公式規則が適用される。(A. R. 8-4-2-VII)
- 9-1-11-d(追加) 【9-3-5-bから移動】
キックをブロック、またはキャッチしようとするディフェンスのプレーヤーは、次のことを行てはならない。
1. 味方のプレーヤーの上に足を置く、飛び乗る、または立つこと。
 2. 味方の上に(両)手を置くことで、高く上がること。
 3. 味方のプレーヤーによって持ち上げられること、高く支えられること、後ろから押し込まれること、押されること。

9-1-11-e(追加) 【9-3-5-aから移動】
すべてのプレーヤーは、スナップの前に味方の背中や肩の上に足をのせていてはならない。
罰則:デッド ボール中の反則。サクシーディング スポットから15ヤード。Bチームの反則に対しては、他の公式規則に抵触しない限り自動的に第1ダウン。[S27]

9-2-1-a-1-(k) (追加)
ボールがデッドになった後、パイルとなっているところで、相手を激しく押したり激しく引いたりすること。(A. R. 9-2-1-XI)

9-2-2-d(追加) 【1-4-2-cから移動】
同じポジションの2人のプレーヤーが試合中に同じ背番号をつけてはならない。

9-2-5 (変更) 【9-2-3-aから移動を含む】
ボールが《プレー中は、》ライブ中およびデッドを宣言された後の一連の行動が継続している間、
(a) チーム エリアにいるコーチ、交代選手、および正式な関係者は、サイドラインとコーチング ラインとの間、およびフィールド オブ プレーに入ってはならない。
罰則:デッド ボール中の反則として施行する。
1回目の違反:サイドラインの妨害に対する警告。距離罰則はない。[S15]
《4回目と2回目》2回目と3回目の違反:サイドラインの妨害によるゲームの遅延。サクシーディング スポットから5ヤード。[S21およびS29]
《3回目》4回目およびそれ以降の違反:サイドラインの妨害によるチームのスポーツマンらしからぬ行為。サクシーディング スポットから15ヤード。Bチームの反則に対しては、他の公式規則に抵触しない限り自動的に第1ダウン。[S27およびS29]
(b) 審判員への身体的な妨害は、チームに対するスポーツマンらしからぬ行為の反則となる。
(A. R. 9-2-5-I)
罰則:デッド ボール中の反則として施行する。チームのスポーツマンらしからぬ行為。サクシーディング スポットから15ヤード。Bチームの反則に対しては、他の公式規則に抵触しない限り自動的に第1ダウン。

11-2-1 (変更) 試合は、《4名、5名、6名、ないし7名》5名、6名、7名、または8名の審判員の管理の下で行われる。

公式フットボール シグナル

【注: シグナル4を変更、シグナル15「サイドラインへの警告」を追加】

付録E 装具:詳細事項

(新規)

【注: ユニフォームの図およびフェイスマスクの例を追加】

【以下は、公式規則解説書の追加項目である。】

A. R. 1-4-5

- I. ホーム チームは、番号の数字がオレンジ色の赤色のジャージを着用していた。審判員は、ジャージの色と数字の色は、番号を識別するのに十分に対照的な色ではないと判断した。レフリーは、ホーム チームのヘッド コーチに正当なジャージに変更するよう要求した。ヘッド コーチはレフリーに対して、違うジャージに変更することはできないと回答した。レフリーは、不正なジャージを着用していれば、各節の開始時にタイムアウトが課されることをヘッド コーチに伝えた。判定：試合開始のキックオフのためのレディ フォー プレーの後、レフリーは、ホーム チームに対して不正な装具によるタイムアウトを課す。チームが不正なジャージを着用し続けた場合には、各節の最初のプレーのレディ フォー プレーが宣告された後、プレー開始前にチーム タイムアウトが課せられる。

A. R. 1-4-7

- II. ダウン終了時、B55のショルダー パッドが露出していて、ジャージで覆われていなかった。判定：不正な装具。プレーを通じてパッドが露出したのなら、B55は、試合から離れることを要求されない。パッドは、ボールが次のプレーに移されるまでにジャージで覆われなければならない。
- IV. レフリーは、Aチームがハドルを解いた時にA35が過剰な形状のフェイスマスクを装備しているのに気付いた。判定：A35は正当なフェイスマスクを装備するために1ダウン試合から離れなければならない。Aチームが、タイムアウトを行使すれば、A35は1ダウン試合から離れなくてもよいが、不正なフェイスマスクのままではプレーに参加することはできない。

A. R. 1-4-8

- III. スクリメージ ダウンでボールがデッドになった時に、アンパイヤーは、ラインバッカーB55のヒップ パッドが腰の部位で露出していることに気づいた。これは前のダウンのプレーを通じて露出したようであった。判定：B55は、試合から離れることは要求されないが、露出したパッドは、次のダウンの前にジャージで覆われなければならない。

A. R. 2-11-4

- I. 接触している2人のプレーヤーA44とB27のそばにパントが転がった。(a)跳ねたボールがB27の脚に当たり、A55がBチームの35ヤード ラインで確保した。(b)A44がB27をボールに向かってブロックし、ボールがB27に当たった後、A55がBチームの35ヤード ラインで確保した。判定：(a)Aチームのボール、Bチームの35ヤード ラインで第1ダウン10ヤード。ボールがB27の脚に当たったのは、A44の接触によるものではない。強制されたタッチではない。(b)A44のブロックがB27のボールへの接触の原因となったので、強制されたタッチである。A55の不正なタッチ。その地点でBチームのボール。

A. R. 3-2-2

- I. ハーフタイムの時点で、得点は56-0であった。両チームのコーチとレフリーは、第3節と第4節をそれぞれ12分に短縮することに合意した。さらに両コーチは、計時を止めないようなランニング計時で後半を行うことを求めてきた。判定：残りの節をそれぞれ12分に短縮することができる。ただし、ランニング計時は認められず、試合全体を通じて、通常の計時方法で行わなければならない。

A. R. 3-2-4

- I. ランニング プレーがアウト オブ バウンズで終了し、ボールがデッドとなり、プレー クロックは40秒計時を開始した。アンパイヤがライン ジャッジからボールを受け取り、グラウンドに置こうとしたとき、そのボールはBチームのものであることに気づいた。アンパイヤはボールをライン ジャッジに戻し、ライン ジャッジはボール パーソンからAチームのボールを受け取ろうとした。判定:正しいボールがサイドラインから入り、レディフォー プレーとなったときにプレー クロックが25秒以下だった場合、レフリーはタイムアウトを宣告し、プレー クロックを25秒にリセットするシグナルを出す。正しいボールがレディフォー プレーとなったとき、レフリーはシグナルを出して、プレー クロックとゲーム クロックの計時を開始する。
- II. ランニング プレーがサイドライン近くで終了し、ボールがデッドとなった。審判員はボールをハッシュ マークに戻すのに手間取った。プレー クロックが25秒近くになったときに、アンパイヤはボールをグラウンドに置き、審判員全員は準備が整っていた。アンパイヤがボールから離れたとき、プレー クロックは25秒をわずかに切っていた。判定:ゲーム クロックを止めずに、レフリーは片手でポンピング シグナルを出し、プレー クロックを25秒にリセットすることを示す。プレー クロックが直ちに25秒にリセットされた場合は、ゲーム クロックを止めない。プレー クロックの計時員がレフリーのポンピング シグナルに素早く反応できなかった場合のみ、レフリーはタイムアウトを宣告し、プレー クロックを25秒にセットするシグナルを出す。その後、プレー クロックとゲーム クロックの計時を開始するシグナルを出す。

A. R. 3-3-2

- VII. Aチームのキックオフで試合が開始され、キック レシーバーは、(a)フェア キャッチをした、(b)最初のボールへのタッチでレシーバーがボールをリカバーしたが、その時にレシーバーの膝がグラウンドに触れていた。判定:計時は進まない。Bチームの第1ダウン、10ヤード。ゲーム クロックは15:00のままである。

A. R. 3-3-9

- V. インバウンズで終了となったランニング プレー中に、ラインバッカーのヘルメットが脱げた。ボールがデッドとなったとき、ゲーム クロックは停止となり、第2節残り45秒であった。判定:プレー クロックは40秒にセットされる。Aチームは10秒減算の選択をすることができる。Aチームが10秒減算を選択し、Bチームは10秒減算を回避するためのタイムアウトを要求しなかった場合、ゲーム クロックは残り35秒にセットされ、レフリーのシグナルで計時を開始する。Bチームが10秒減算を回避するためのタイムアウトを要求した場合、ゲーム クロックは残り45秒のまま、プレー クロックは25秒にセットされる。レフリーのシグナルで、プレー クロックは計時を開始され、ゲーム クロックはスナップで計時開始となる。

A. R. 3-5-3

- VI. Aチームは、Bチームの3ヤード ラインから2点のトライを狙ってライン アップした。Bチームは11人のプレーヤーがフォーメーションについている。ボールがスナップされる前あるいはスナップされたときに、Bチームの12人目のプレーヤーがフィールド内に入った。A22はクォーターバックからハンドオフを受け、(a)1ヤード ラインでタックルされた、(b)エンド ゾーンにボールを持ち込んだ。判定:12人以上のプレーヤーがフィールドにいたことによる、Bチームのライブ ボール中の反則。(参照:1-1-1)審判員はホイッスルを吹いて、プレーを止めてはならない。(a)Bチームに対する、ゴールまでのハーフ ディスタンスの罰則で、Bチームの1.5ヤード ラインからトライのやり直し。(b)Aチームは罰則を辞退し、トライ成功。

A. R. 4-1-2

- III. Aチームの30ヤード ラインで第4ダウン、5ヤード。キック中に審判員による不用意なホイッスルが吹かれた。判定:ダウンを繰り返す。ゲーム クロックはスナップで計時開始。(参照:3-3-2-f)

A. R. 4-2-1

- Ⅲ. Aチームの35ヤード ラインからAチームがオンサイド キックを行った。サイドライン近くを走るA33は、Aチームの45ヤード ラインでアウト オブ バウンズに出た。彼がAチームの47ヤード ラインで飛び上がって前方へボールをバッティングした。ボールはそのまま転がり、Aチームの49ヤード ラインでアウト オブ バウンズに出た。判定:Aチームの47ヤード ラインでAチームのフリー キック アウト オブ バウンズの反則。A33はアウト オブ バウンズへ出た後にインバウンズへ戻っていないので、空中でボールにタッチしたA33はアウト オブ バウンズにいたことになる。A33がボールにタッチした直後にボールはデッドになるので、ボールの前方への不正なバッティングの反則ではない。(参照:4-2-3-a)

A. R. 6-3-11

- I. Aチームが50ヤード ラインからスナップし、パントした。キックはニュートラル ゾーンを越え、誰にも触れられず、A88がBチームのゴール ラインを越えた地点へ手を伸ばしてボールをバッティングしてフィールド オブ プレーに戻した。ボールはBチームの4ヤード ラインでアウト オブ バウンズへ転がり出た。判定:エンド ゾーンでのボールのバッティングの反則ではない。不正なタッチ。バイオレーションの地点はBチームの20ヤード ラインである。Bチームの20ヤード ラインでBチームのボールで第1ダウン、10ヤード。
- Ⅳ. 50ヤード ラインからAチームのパント。キックの間に、Bチームの25ヤード ラインでB77がクリッピングをした。タッチされていないキックを、エンド ゾーンでAチームが後方にバッティングし、ボールは2ヤード ラインでアウト オブ バウンズへ出た。判定:エンド ゾーンでのボールのバッティングの反則ではない。不正なタッチ。B77のクリッピングの反則にはポストスクリメージ キックの規則が適用される。Aチームは罰則を受諾することにより不正なタッチに関する権利を取り消すことができる。罰則はポストスクリメージ キックの地点であるBチームの20ヤード ラインで施行され、ハーフ ディスタンスが適用される。Bチームの10ヤード ラインでBチームのボール。
- V. Aチームが50ヤード ラインからスナップし、パントした。キックはニュートラル ゾーンを越え、誰にも触れられず、A88がBチームのゴール ラインを越えた地点へ手を伸ばしてボールをバッティングしてフィールド オブ プレーに戻した。ボールはBチームの4ヤード ラインでアウト オブ バウンズへ転がり出た。キックの間に、A55が腰より下にブロックした。判定:エンド ゾーンでのボールのバッティングの反則ではない。不正なタッチ。バイオレーションの地点は、Bチームの20ヤード ラインである。Bチームは、腰より下へのブロックに対する罰則を受諾し、Bチームの4ヤード ラインで施行するか、プレビアス スポットで施行してダウンを繰り返すかの選択ができる。Bチームが罰則を辞退すれば、不正なタッチによりBチームの20ヤード ラインでBチームのボールとなり、第1ダウン、10ヤードが与えられる。

A. R. 6-3-12

- I. ガナー A88は、パント カバーのためにサイドライン際を走り、サイドラインを踏んだ後インバウンズに戻り、フィールドを走り続けた。そしてBチームの30ヤード ラインでリターナーをタックルした。判定:スクリメージ キック プレー中にインバウンズに戻ったことでA88の反則。5ヤードの罰則。Bチームは罰則施行後にダウンを繰り返すか、Bチームの35ヤード ラインでボールを得るかを選択できる。

A. R. 7-3-9

- Ⅲ. サイドライン際のパス パターンを走っていたエンドのA88がサイドラインに触れた直後にディフェンスのプレーヤーが突き当たった後、ボールをはたき落とした。判定:ディフェンスのパス インターフェランスではない。A88はアウト オブ バウンズに触れて、無資格レシーバーとなっていた。(参照:7-3-3)

A. R. 7-3-12

- I. Aチームの20ヤードラインからの攻撃。A11からA88へのフォワードパスが投げられている間に、B88がA79のヘルメットを手で強打する反則が発生した。プレーの結果、(a) 10ヤードのパスが成功し自陣30ヤードでA88がダウンした。(b) パスは不成功またはインターセプトされた。判定:(a) 罰則を自陣30ヤードから施行し、自陣45ヤードからAチームの第1ダウン。(b) 罰則をプレビアススポットから施行し、自陣35ヤードからAチームの第1ダウン。(参照: 9-1 罰則)

A. R. 8-3-3

- III. Aチームはトライを行うためにBチームの3ヤードラインのフィールド中央にセットしたが、フォールスタートを犯し、罰則によりボールはBチームの8ヤードラインに置かれた。その後、キックの試みはブロックされたが、スナップ時にB77がニュートラルゾーンに侵入していた。罰則によりBチームの4ヤードラインでダウンを繰り返すことになった。この際、Aチームはボールを右側のハッシュマーク上に置くことを要請した。判定: 審判員は、この要請を認め、ボールは右側のハッシュマークのBチームの4ヤードラインでレディフォープレーとなる。

A. R. 8-4-2

- VII. AチームはBチームの15ヤードラインでスナップし、フィールドゴールを試みた。キックはブロックされたが、ニュートラルゾーンを越え、Bチームの12ヤードラインに落ちた。両チームのどのプレーヤーもニュートラルゾーンを越えた地点でボールにタッチすることなく、ボールはニュートラルゾーンの手前にバウンドして戻り、(a) Bチームの17ヤードラインでアウトオブバウンズに出た。(b) Bチームの25ヤードラインでアウトオブバウンズに出た。判定:(a) Bチームの17ヤードラインで、Bチームの第1ダウン、10ヤード。(b) Bチームの25ヤードラインで、Bチームの第1ダウン、10ヤード。(参照: 6-3-7および8-4-2-b)

A. R. 9-1-2

- III. A11はA88へのフォワードパスを成功させ、A88はフィールドオブプレーでタックルされた。プレー中、ディフェンスエンドB88はA79に対するパーソナルファウルを犯した。判定: 15ヤードの罰則は、A88がタックルされた地点から施行される。(参照: 7-3-12および9-1 罰則)

A. R. 9-1-4

- VII. 両チームが所属する競技団体あるいは異なる競技団体に属する両チームは、前半に発生したターゲティングの反則を対象に、ハーフタイムにレビューを行うことを合意していた。第1節に、レシーバーA88がパスをキャッチしたとき、ディフェンスのB55がミサイルのように突っ込んで、肩と上腕でA88の上半身に接触した。バックジャッジは、首または頭部へのターゲティングの反則をコールした。レフリーは、首または頭部へのターゲティングがあったため、B55は資格没収となることをアナウンスした。判定: ハーフタイムにビデオのレビューを行い、レフリーとクルーは、B55はA88の首または頭部への強力な接触をしていないと判断して、B55の資格没収を取り消す。レフリーは、両チームのコーチに、B55が後半に試合に戻れることを報告する。後半のキックオフの前に、レフリーは、レビューの結果、B55の資格没収は取り消され、後半の試合に戻れることを観客にアナウンスする。

A. R. 9-1-7

- II. サイドライン方向へのスウィーププレーで、ラインバッカーB55はブロックを避けるためにアウトオブバウンズに出た。リードブロックのガードA66は、前方の足でサイドラインを踏んだとき、肩を使って、まだアウトオブバウンズにいるB55の正面の腰に接触した。判定: 正当なブロック。A66は両足がアウトオブバウン

ズには出ていない。

A. R. 9-1-9

- II. クォーターバックA11がポケットの中でドロップ バックし、パスを投げる姿勢をとった。ちょうどボールを投げたとき、エンドのB88が肩を使ってA11の膝に突っ込んだ。パスは、(a)不成功となった。(b)A44がキャッチし、12ヤード前進してBチームの40ヤード地点でタックルされた。判定:パサーの膝または膝より下に強力な接触をしたことによる9-1-9-b の違反で、B88の反則。(a)プレvias スポットから、(b)A44のラン エンドの地点であるBチームの40ヤード ラインから、15ヤードの罰則、自動的に第1ダウン。
- III. クォーターバックA11がポケットの中でドロップ バックし、パスを投げるために止まった。A11は右にスクランブルし、再びパスを投げるために止まり、パスの姿勢をとったとき、B88が肩を使ってA11の膝に突っ込んだ。B88にタックルされたため、A11はボールを抱えこんでグラウンドに倒れた。判定:B88による9-1-9-bの反則。厳密には、A11はボールを投げていないのでパサーではないが、B88の行為は、9-1-9-bにより、パスの姿勢をとってパサーになる可能性のあるA11に対する反則である。

A. R. 9-2-1

- XI. プレー中にボール キャリアがボールをファンブルし、複数のプレーヤーがボールに向かって飛び込んだ。B55がA33をつかみ、激しく引いてパイルから引き離れた。判定:B55のスポーツマンらしからぬ行為の反則。15ヤードの罰則を施行し、自動的に第1ダウン。レフリーは、B55の1回目あるいは2回目のスポーツマンらしからぬ行為の反則であることをアナウンスする。もし2回目であれば、B55は資格没収となる。

A. R. 9-2-3

- I. ボールがレディ フォー プレーとなった後、アンパイヤは通常的位置についた。Aチームはすばやく何人かのプレーヤーを交代させ、必要な1秒間の静止の後、ボールをスナップした。アンパイヤはディフェンスに対応させるためボールの所に行こうとしたが、スナップを止めることはできなかった。判定:プレーを中断する。ゲーム クロックを止め、Aチームの遅い交代に対応できるようディフェンスの交代が許される。反則ではない。プレー クロックは25秒にセットされ、レディ フォー プレーのシグナルで計時を開始する。ゲーム クロックはプレーが止められたときの状況に応じてレディ フォー プレーのシグナル、またはスナップで計時を開始する。レフリーは、Aチームのヘッド コーチに、次のこのような交代はスポーツマンらしからぬ行為の反則となることを伝える。(参照:3-5-2)

A. R. 9-2-5

- I. 試合開始のキックオフで、B22は自陣ゴール ライン上でキックをキャッチし、Bチーム側のサイドライン近くをリターンした。サイド ジャッジがプレーを見ながらサイドラインを走っているとき、白で塗られた制限された領域にいるBチームのコーチ、あるいは登録選手に突き当たった、あるいは避けるために回り道をしなければならなかった。B22はAチームの20ヤードラインでアウト オブ バウンズに押し出された。判定:いずれの場合もプレー中の審判員に対する身体的な接触の妨害である。警告はしない。Bチームのスポーツマンらしからぬ行為の反則。デッドボール中の反則として施行する。15ヤードの罰則を施行し、Aチームの35ヤード ラインでBチームの第1ダウン、10ヤード。

以上